

# 2019年度「オリンピック・パラリンピック・ムーブメント全国展開事業」

## 事業実施報告書

- |     |                                    |
|-----|------------------------------------|
| I   | スポーツ及びオリンピック、パラリンピックの意義や歴史に関する学び   |
| II  | マナーとおもてなしの心を備えたボランティアの育成           |
| III | スポーツを通じたインクルーシブな社会（共生社会）の構築        |
| IV  | 日本の伝統、郷土の文化や世界の文化の理解、多様性を尊重する態度の育成 |
| V   | スポーツに対する興味・関心の向上、スポーツを楽しむ心の育成      |

道府県・政令市名【 山口県 】

学校名【 山口県立田布施総合支援学校 】

1 実践テーマ	I ・ III ・ IV ・ V
2 実施対象者 (学年・人数)	小学部・中学部・高等部（全児童生徒167名） ※オリンピック等によるスポーツ教室には、近隣の小学校の児童及び教員も参加
3 展開の形式	(1) 学校における活動 ① 教科名（ 体育、日常生活の指導、総合的な学習の時間 ） ② 行事名（ ） ③ その他（ 給食指導、寄宿舎における取組 ） (2) 地域における活動 ① イベント名（ ） ② その他（ ）
4 目標 (ねらい)	特別支援学校におけるオリンピック・パラリンピック教育 (以下、「オリパラ教育」という) (1) オリンピアン・パラリンピアンによる授業や体験教室、オリパラ教育等を通じて、オリンピック・パラリンピックに関する興味関心を高めるとともに、スポーツの楽しさや取り組む姿勢について学び、生涯にわたりスポーツに親しむ素地を育む。 (2) スポーツを核とした交流及び共同学習等の心触れ合う機会を通じて、障害や障害のある児童生徒への理解を促進するとともに、共生社会の実現に向けた理解促進の機会とする。
5 取組内容	1 オリンピアン等によるスポーツ教室 (1) アテネ、北京、ロンドンなどオリンピック3大会出場の山崎勇喜さん（陸上：競歩）、公益財団法人日本財団 パラリンピックサポートセンターの永田悠祐さんを招聘し、「オリンピック・パラリンピック」「競歩」について講義いただくとともに、「陸上教室」では、競歩体験とともに、速くなる走り方について分かりやすく説明いただいた。 また、「陸上教室」では、近隣の小学校の児童にも参加いただき、競歩体験やしっぽ取りゲームなどの交流及び共同学習を行った。

### オリンピック（山崎勇喜さん）とのスポーツ教室

近隣の小学生と一緒に汗を流しました。



- (2) フライングディスクの日本記録保持者の大内勝利さんを招聘し、フライングディスクを遠くに投げるコツやコントロールのコツについて講義いただき、フライングディスクを体験した。

### 日本記録保持者（大内さん）によるフライングディスク教室

アキュラシー競技にも挑戦しました。



## 2 学校全体で取り組むオリパラ教育

- ①年間を通じた「体力づくり」設定による児童生徒の体力向上
- ②オリパラ給食を通じた異文化理解

### オリパラ給食を通じた異文化理解

身近な給食を通じて世界の料理や文化を学びました。



③寄宿舍における調べ学習（パラリンピック開催国や歴史について）による国際理解

寄宿舍による調べ学習

なりきり写真やオリパラ開催国について学習しました。



④文化祭におけるオリパラ教育発表会

文化祭によるオリパラ教育の発表

これまでの取組の成果を発表しました。



6 主な成果

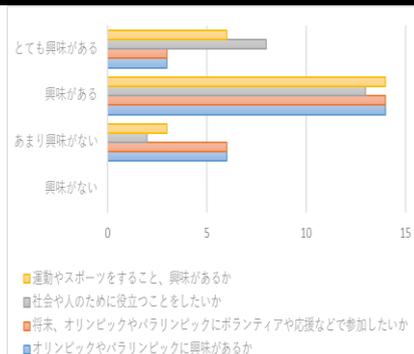
- 1 オリンピック出場を果たした選手や世界で活躍した選手と直接交流することにより、オリンピックやパラリンピックを身近な存在として捉え、スポーツに関する興味関心を高めることができた。また、日々の「体力づくり」にも意欲的に取り組む姿が見られた。
- 2 オリパラ給食を通じて世界の料理や文化などを学ぶとともに、世界の国や歴史について調べた学習内容を文化祭において発表するなど、保護者や地域へ情報を発信することができた。また、交流及び共同学習や文化祭での発表等を通じて、相互理解や障害等に関する理解促進に努めた。

オリンピックによるスポーツ教室後のアンケートより

高等部生徒が振り返りを行った。

【生徒の変容】

実施後のアンケートから、「オリンピックやパラリンピック」について興味を示すとともに、「ボランティアや応援などで参加したい」と興味を示す生徒が多かった。  
また、「社会や人のために役立つことをしたい」と前向きに考える生徒や、「運動やスポーツを組みたい」と興味を示す生徒が多い傾向が見られた。



<p>7実践において工夫した点 (事業の特色)</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 2020年に開催される東京オリンピック・パラリンピックを児童生徒が身近な存在として捉えられるよう、オリンピック出場選手や日本で活躍している選手等と直接交流する機会を設けるとともに、小・中・高等部が一体となり、年間を通じた全校体制でのオリンピック・パラリンピック教育の取り組みとした。</li> <li>○ 各学部での取り組み以外にも、栄養士と連携したオリパラ給食や寄宿舎での調べ学習など、学校全体による取り組みとともに、家庭や地域へ情報発信するなど、学校・家庭・地域において、オリンピック・パラリンピックへの気運醸成の機会とした。</li> <li>○ 本校は、山間部に位置しているが、小学校が近隣である地の利を生かして、日常的な交流及び共同学習の中に位置付けて展開することとした。また、移動時間が少ないため、体験時間等を十分に確保することができている。</li> </ul>
<p>8主な課題等</p>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 先進校の取組等を参考にしながら、持続可能な具体的取組の検討・継続・発展</li> <li>2 取組の成果の共有化に向けた、情報発信の工夫及び外部との連携</li> <li>3 共生社会の実現に向けた、交流及び共同学習や地域協働活動の一層の充実による理解促進</li> </ol>
<p>9来年度以降の実施予定</p>	<p>2020年開催年度となったオリンピック・パラリンピックを契機として、本校におけるオリパラ教育を一層充実・発展させ、児童生徒のスポーツに関する興味を高め、生涯にわたりスポーツに親しむ素地を育む。</p> <p>また、交流及び共同学習の充実及び地域等と連携・協働した活動を一層充実させ、障害や障害のある生徒への理解を促進するとともに、共生社会の実現に向けた理解を促進する。</p>